

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501249

研究課題名(和文) 明治初期日本における医療情報の伝達・普及・啓蒙

研究課題名(英文) A study on the dissemination, spread and enlightenment of the information of medical knowledge in mid-nineteenth century, Japan

研究代表者

月澤 美代子 (TSUKISAWA, Miyoko)

順天堂大学・医学部・准教授

研究者番号：40311980

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：明治初期日本において欧米から新たに移入された医療知識に関する情報の伝達・普及・啓蒙に関して、「医療専門職」、「民衆」、さらには、この間を媒介した「医療啓蒙者」のそれぞれの活動に焦点をあてて研究した。3つの歴史上の具体的な事例、すなわち、(1)西洋解剖学的人体像、(2)皮下注射法、(3)産科・助産学の導入、伝達、普及の面から研究を進め、上田維暁、小林義直、佐々木東洋、長谷川泰らの果たした歴史的役割を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I analysed the dissemination and spread of medical knowledge newly imported from Europe and the U.S.A. in mid-nineteenth century Japan, and the resulting enlightenment. I focused on three groups, members of the medical profession, lay-people, and propagators of medical knowledge, and investigated three historical cases: the introduction, dissemination, and spread of knowledge of (1) the image of the human body in western anatomy, (2) injection methods, and (3) obstetrics and midwifery. As a result, I made clear the historical role of some physicians, such as UEDA Koreaki, KOBAYASHI Yoshinao, SASAKI Toyo, and HASEGAWA Tai, as medical propagators at that crucial time.

研究分野：医学史

キーワード：医療情報の伝達 医学知識の普及 医療啓蒙 医療専門職 民衆 19世紀半ば 日本医療史 グローバルな視点

## 1. 研究開始当初の背景

幕末から明治初期日本における近代医学の受容過程に関しては、これまで多くの先行研究が蓄積されてきた。特に、欧米からのお雇い外国人医師による医療技術の伝達、東京大学医学部を中心とした医学教育制度の導入過程に関する先行研究は充実している。また、明治初期の「思想啓蒙」活動に関しても、福澤諭吉、西周、加藤弘之などを中心に、これまで多くの研究が蓄積されてきた。さらに、1960年代以降、日本における民衆史研究は充実しており、自由民権運動期を中心として、「近代化」に伴って導入された急激な社会の変化を受け止めた民衆の心情をも含めた研究が蓄積されている。

しかし、「医療啓蒙者」の活動を視野に入れ、西洋医学へと転換しつつある「医療専門職集団」と「一般民衆」に対する、欧米をも含めた同時代史的観点に立った「明治初期日本の医療情報の伝達・普及」に関する研究は、種痘に関する研究以外、ほとんど行われていない。

医療は日常的な営為であり極めて蓄積性が高い。このため、医療の変革は、きわめて緩やかに進行してきた。しかし、漢方から西洋医学へと急激な変革の行われた幕末から明治初期の日本においては、この限りではなかった。明治初期において、お雇い外国人医師や医療情報誌といった、いくつかの「点」を通して欧米から導入された医学・医療に関する「情報」は、多様なルートを介して日本全国へと伝達されていった。これは、新たに形成されつつあった「医療専門職集団」に向けてのみではなく、公衆衛生政策の対象、あるいは、患者として臨床場面に登場する「一般民衆」、あるいは、地域の伝統的な知識人といった多様な性格をもつ複合的・立体的な層に向けての急速な伝達・普及を必要としていた。

この場面において、「点」として導入され

た医療知識に関する情報を、日本全国という「面」に、あるいは、医療専門職から一般民衆という多様な層に対して「立体」的に広げていく積極的な活動を行った一群の人々がいる。彼らを、本研究では「医療啓蒙者」として緩やかな括りの中で扱い、医史学研究の対象としていく。

江戸後期日本において、都市を中心として出版文化は一部の知識人のみならず「一般民衆」にも浸透していた。医療に関する「情報」も広く出回っており、「一般民衆」は自分自身の身体の不調に対して自分自身で対処する術を心得ていた。明治維新とともに、この状況は変わっていく。西洋医学の教える正しい人体像以外の伝統的な人体像は「誤ったもの」として排斥され、民間医療は「無知な迷信」として否定された。この場面で、一群の「医療啓蒙者」たちが登場する。彼らは、多様な学問的背景をもっていたが、欧米から導入された医療情報を広く紹介していく歴史的役割を担っていた。「啓蒙」の対象には、「一般民衆」のみならず、未だ「専門職集団」として組織化されていない地域の医療者も含まれていた。明治初期日本における医療技術の受容の立体的な把握と再構成には、この「医療啓蒙」の内容と質の変化の分析と理解が極めて重要だが、本研究以外、十分な研究が未だ行われていない状況にある。

## 2. 研究の目的

本研究は、明治初期日本における医療情報の伝達・普及・啓蒙に関して、「形成過程にある医療専門職集団」、「民衆」、さらには、この間を媒介した「医療啓蒙者」のそれぞれの活動に焦点をあてて、具体的な事例を中心に、欧米の状況を含めた同時代史的観点から分析し、明治初期日本における医療技術の受容過程の立体的な把握を目指すものである。

## 3. 研究の方法

次の(1)(2)(3)の側面から、関連する文献

資料・器物資料を収集した上で画像データ化し、データベースを活用した史料分析と、一定の仮説に基づく医史学的な検討とを組み合わせる。

(1)幕末から明治初期、日本に導入された西洋医学の中核とも言える西洋解剖学的人体像の「一般民衆」への伝達・普及を、学制期に初等教育用の教科書として刊行された「人体問答」書に焦点をあてて分析の対象とした。使用した方法は以下の通りである。先行研究を収集して分析した。現在、日本全国で保存の確認される「人体問答」書の画像データを網羅的に収集して、データベース化した。特色を分析し、グループ分けを行った。掲載された人体内臓図を中心に、模倣の対象となったオリジナルな解剖図を解明し、さらに、普及・伝達の経路を明らかにした。～の結果得られた研究成果を当該時代の日本のみならず、欧米を含めた世界史的な視野のもとに分析し、歴史的背景の中に位置づけて論文としてまとめた。

(2)19世紀半ばに欧米で開発された皮下注射法とアルカロイド系薬剤の明治初期日本における普及・伝達の経路を研究の対象にした。用いた方法は以下の通りである。

先行研究の分析・検討、欧米の医療情報誌に掲載された原著論文・症例報告をもとに、19世紀欧米における皮下注射法の開発過程を明らかにした。明治初期日本において刊行された医療情報誌に掲載された論文・症例報告等を基本史料として、日常診療場面の皮下注射法の普及状況を調べ、データ化した。明治初期日本における軍事医療の場における皮下注射法の使用状況に関する一次史料を収集して分析した。さらに周辺の歴史状況を確認するために一次史料を集めて分析し、明治初期日本における皮下注射法の「形成過程にあった医療専門職集団」への普及・伝達過程について医史学的分析を行い、論文を作成した。

(3)江戸期から日本において独自の展開を遂げていた、産科に関する専門職である産科医と産婆を対象に、西洋医学の「情報」の伝達・普及・啓蒙過程の分析を行った。用いた方法は以下の通りである。先行研究の収集と分析：この分野においては既に充実した先行研究が蓄積しており、研究の到達地点を確認した。明治初期日本で西洋産婆教育の普及のための基本的教科書として使用された『朱氏産婆論』に着目し、ドイツ語原典との比較対照検討を行った。当該時代の産科と助産をめぐる歴史的背景に関して文献資料を収集し検討を加えた。上記、分析結果に医史学的分析を加えて論文を作成した。

#### 4. 研究成果

研究目的にあげた(1)～(3)の3つの面のそれぞれにおいて、次のような研究成果を得た。

(1)西洋医学の中核とも言える西洋解剖学的人体像の「一般民衆」への伝達・普及を、学制期に初等教育用の教科書として刊行された「人体問答」書に焦点をあてて分析し、初等教育における教育対象としての人体内臓の取り上げ方、人体内臓図の伝達・普及における上田維暁らの果たした役割に関してオリジナルな知見を成果として得た。この成果を、日本医史学会で口頭発表した後、日本医史学雑誌に原著論文「明治初期日本における近代医学の受容と民衆の人体像 - 明治8～11年出版「人体問答」書の分析 - 」として発表した。さらに、明治維新期の日本の民衆の人体像の転換を思想的側面に焦点を当てて分析し、その成果を、イギリス・マンチェスターで開催された第24回国際科学史・技術史・医学史会議 (XXIII International Congress of History of Science, Technology and Medicine, 22-28, July, 2013, Manchester, England) で“Changing world and changing image of the human body: ‘Bunmei-kaika’ and popular body

image in mid-nineteenth century Japan”と題して口頭発表した。このマンチェスターでの国際学会に関しては、国際会議の参加者6人の参加報告記をまとめ、研究代表者が編集委員長をつとめる『生物学史研究』誌で特集「第24回国際科学史・技術史・医学史会議 (XXIVth International Congress of the History of Science, Technology and Medicine in Manchester) 参加報告」を組んだ他、『日本医史学雑誌』にも異なった視点からの参加報告記を寄稿し、国際会議での発表に関する情報の広報・普及に努めた。

(2)江戸期までの東アジア文明圏の医療技術と異なる枠組みの中で19世紀半ばに欧米で開発された新しい医療技術である皮下注射法に焦点をあてて、西洋医学へと転換しつつある「医療専門職集団」への、その伝達・普及の過程を分析し、オリジナルな成果を得た。得られた成果を、日本医史学雑誌に原著論文「明治初期日本における医療情報の伝達 - 西南戦争・コレラと皮下注射法の普及」として発表し、平成25年度日本医史学会学術奨励賞を受賞した。さらに、佐倉市教育委員会主催の市民を対象とした公開講演会である佐倉順天堂記念講演会で「注射器・コレラ・西南戦争」と題して発表した。

(3)江戸期に既に日本に存在し機能していた出産に関する2つの医療職、すなわち、産婆と産科医に焦点をあてて、医療情報の導入と伝達の過程を分析し、オリジナルな成果を得た。得られた成果は、日本大学文理学部で開催された教育史学会で「明治初期日本における内務省免許産婆教育 - 『朱氏産婆論』とドイツ語原著との比較から見る教育意図 - 」と題して発表した。さらに、広い視野から助産・産科史研究を俯瞰した上で、日本医史学会例会でシンポジウムをオーガナイズし、「産科と助産 / 現代の課題と医史学の観点から」として公開発表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

月澤美代子、明治初期日本における近代医学の受容と民衆の人体像 - 明治8~11年出版「人体問答」書の分析 - 、日本医史学雑誌、査読有、59、2013、533-546

月澤美代子他、第24回国際科学史・技術史・医学史会議 (XXIVth International Congress of the History of Science, Technology and Medicine in Manchester) 参加報告、生物学史研究、査読無、89、2013、59-113.

月澤美代子、イギリス・マンチェスターで開催された第24回国際科学史・技術史・医学史会議参加報告 日本醫史学雑誌、査読無、59、2013、565-569.

月澤美代子、明治初期日本における医療情報の伝達 - 西南戦争・コレラと皮下注射法の普及 - 、日本医史学雑誌、査読有、58、2012、457-470.

〔学会発表〕(計7件)

月澤美代子、イントロダクション - 産科と助産 / 現代の課題と医史学の観点から - 、日本医史学会3月例会シンポジウム、2015/3/28、順天堂大学医学部 (東京都・文京区)

月澤美代子、注射器・コレラ・西南戦争、佐倉順天堂歴史講演会、2015/3/1、佐倉市美術館講堂 (千葉県・佐倉市) (招待講演)

月澤美代子、明治初期日本における内務省免許産婆教育 - 『朱氏産婆論』とドイツ語原著との比較から見る教育意図 - 、第55回教育史学会、2014/10/5-6、日本大学文理学部 (東京都・世田谷区)

月澤美代子、明治初期日本における西洋解剖学的人体イメージの普及過程 - 上田文齋の内臓図 - 、日本醫史学会、

2013/5/11～12、日本歯科大学（東京都・千代田区）

月澤美代子、明治初期日本における近代医学の受容と民衆の人体像 - 明治8～11年出版「人体問答」書の分析 - 、教育史学会、2012/9/22-23、お茶の水女子大学（東京都・文京区）

Miyoko TSUKISAWA, Changing world and changing image of the human body: 'Bunmei-kaika' and popular body image in mid-nineteenth century Japan, iCHSTM, 2012/7/22～28, Manchester (U.K.)

月澤美代子、明治初期日本における医療技術の移入と伝達 - 西南戦争と皮下注射法の普及、日本醫史学会、2012/6/16～17、獨協医科大学(栃木県・下都賀郡 壬生町)

〔図書〕(計1件)

月澤美代子(医学史領域責任編集者)、南山堂：東京・文京区、医学大事典(第20版)、2015

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

月澤美代子 (TSUKISAWA, Miyoko)

順天堂大学・医学部・准教授

研究者番号：40311980